

大和工営株式会社 創立 50 周年記念 社員旅行写真集

期日：2016年（平成28年）4月15日（金）
4月16日（土）

幹事：大貫久男、高橋研
落合潤、遠藤ヒロエ

福島まるごと周遊



春爛漫の会津若松「鶴ヶ城」

ごあいさつ 昭和41年5月30日に設立した当社は、今年創立50周年を迎えることができました。創立以来、調査、測量、建設コンサルタント、補償コンサルタントを主な業務として地域のアドバイザーとして貢献してまいりました。近年に於いてはコンピューター技術の進化に伴い、スピーディーで精度良く作業を行い、また地理情報の集積など、最新の技術を取り入れた当社の体制は、必ずや地域開発あるいは環境保全のコンサルタントとしてお役に立てると確信し、社員一同研鑽を重ねております。

このたび弊社では、創立50周年記念事業として「祝賀会」と「社員旅行」を実施いたしました。社員旅行の行き先は、福島の復興を応援したいとの想いで一番いい時期の福島を見聞し、そして「写真集」としたのが小誌です。

創立50周年の伝統を誇りに思い、大和一致の精神で地域社会への貢献を目指していきます。今後ともご指導、ご支援のほど宜しくお願いいたします。



大和工営株式会社
代表取締役 後藤信一
（第7代目・現社長）

大和工営株式会社の創立 50 周年記念事業について

大和工営の創立 50 周年記念事業は、「創立 50 周年記念祝賀会」と「創立 50 周年記念社員旅行」に分けて実施しました。「記念祝賀会」は昨年（平成 27 年）10 月 23 日（金）に新庄市の「ニューグランドホテル」にて開催致しました。

大和工営株式会社創立 50 周年記念社員旅行

山交観光株式会社
新庄案内所

●旅行期日：平成 28 年 4 月 15 日（金）～平成 28 年 4 月 16 日（土）2 日間 TEL0233-22-2711
担当：佐藤 圭

●行 程：

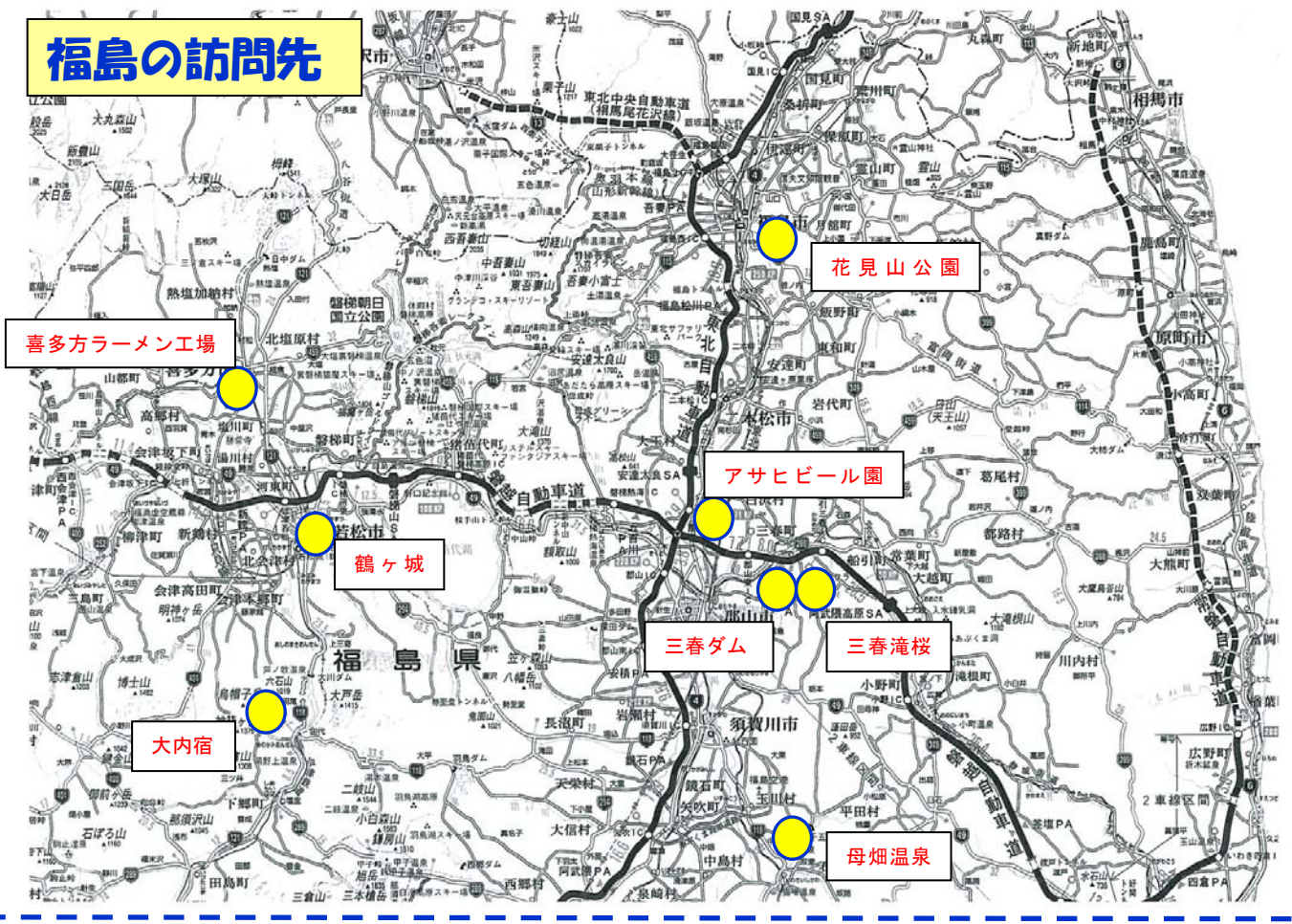
日次	行 程
4/15	<p>新庄-----東根IC-----高速-----福島飯坂IC-----花見山公園(さまざまな花が咲き競う福島の桃源郷の散策) 7:30 8:40 10:10 10:40 ~ 11:50</p> <p>福島西IC-----高速-----本宮IC-----アサヒビール園(バーベキュー昼食)-----三春の滝桜(日本一の太枝垂れ桜観賞) 12:15 12:35 12:40 ~ 14:30 15:00 ~ 16:10</p> <p>三春ダム-----母畑温泉(泊) ボバダ 16:50</p>
4/16	<p>母畑温泉-----空港IC-----高速-----白河IC-----甲子トンネル-----大内宿(散策)-----鶴ヶ城(昼食と日本の桜百選) 8:30 8:40 9:00 10:30~11:30 12:10~12:50</p> <p>鶴ヶ城の見学)-----喜多方ラーメン工場(ショッピング)-----大峠-----米沢-----高速-----東根IC-----新庄 13:00 ~ 14:00 14:30~15:00 16:00 17:10 18:20</p>

創立 50 周年記念祝賀会は

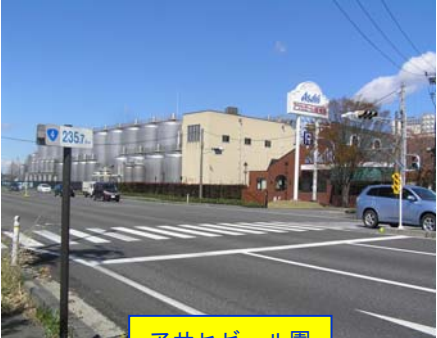


2015 年（平成 27 年）10 月 23 日（金）新庄市内「ニューグランドホテル」で開催した

福島県の訪問先



花見山公園



アサヒビール園



三春ダム



三春滝桜

**食と風景を満喫
福島まるごと
周遊の社員旅行
創立 50 周年記念**



母畑温泉「八幡屋」



大内宿



鶴ヶ城



喜多方ラーメン工場

新庄～花見山公園

出発は雨の朝でした・・・

当日4月15日（金）の朝は雨。
会社に集合したメンバーで集合写真を撮ることにしていた。生憎の天候のため軒下に並んでの撮影となる。

時間きっかりと7時30分に集合した高山好子さんとバスに乗り込んで創立50周年記念旅行は出発した。



会社に集合した参加メンバー

傘をさしてのお出迎え・・・

大型観光バスは「トランスオーシャンバス」で、乗務員の清水孝二運転士と滝本晶子ガイドに2日間お世話になることとなった。

雨の中をバスは南下していく。尾花沢の花笠地蔵で3名、道の駅村山で1名が乗車して、24名全員が揃った。



2日間、お世話しますヨ



後藤社長、大貫専務乗車・・・



尾花沢組：菅野欽也課長も乗車・・・



奥様方の見送りを後に、出発進行!!

バスガイドは28歳???

後藤社長が乗車したところで改めてバスガイドから挨拶と自己紹介があった。自分のことを「晶子ちゃん」って呼んで頂ければと「親密さ」アピールしてくる。その上、年齢は「28歳」と言って自分で笑いこけているから不思議!??

急がないので安全運転で・・・

後藤社長の挨拶の中で、昨今の「大型バス」の事故が多発しているのに鑑み、「ゆっくりでいいので安全運転をお願いします」と乗務員へのお願いがあった。

一日が始まったばかりなのに、高橋研次長の音頭で「乾杯!!」となった。旅行の始まりが「朝酒」での祝宴となった。とりわけ車内後部のサロンシートは呑むほどに盛り上がっていった。



「運転手さん」、安全運転で！

今日は小原庄助さんになってえ

晶子ガイドがしきりに天候の心配をしてくれ、そして曰く、皆さん、今日は小原庄助さんになって下さい。「知ってます？、小原庄助さん？」とワンコーラスを熱唱してみせた。そしてトイレ休憩は、古関 SA と国見 SA を予定しており、我慢できない場合は早めに言って下さい。と言うと、「タンクでっかいから、大丈夫」の声が上がった。



10 数年振りの社員旅行です!..

乾杯!!



村山で見た虹：いいことありそォ・・・



酔う程にはずむ会話・・・



盛り上がるサロンシート・・・

花見山公園

福島のは 青空が広がる・・・

福島県に入ると天気は青空が広がる。風は強いが、これから明日までは晴れの予報がでている。

飯坂 IC が近づいたころ、晶子ガイドが「みなさん吾妻小富士の雪うさぎが見えますヨォ」と興奮しながら、右手の前方を指さした。



吾妻山の雪うさぎ

資料

花見山公園は個人の山・・・

飯坂 IC をおりて、30 分程で最初の訪問地「花見山公園」に到着した。狭い住宅街の通路を歩いてきた駐車場の駐車料金は大型観光バスの場合、1 万円だという。風が強いものの、天気は快晴となっていた。

花見山公園とは・・・

沿革

- ※昭和 11 年初代阿部伊勢次郎から家族に「前の雑木山を花の山にすれば美しい山になる。それは農家でなければできない楽しみだ。」と話があった。
- ※それから 15 年ほど植え続けるうちに山には花が増え、少しずつきれいになっていった。
- ※すると、山を見せてほしいという人が年々多くなり、その時家族の中では戸惑いを感じていた。
- ※伊勢次郎の「こんなにきれいに咲いた花を自分達だけで楽しむのはもったいない・・・」との考えから、昭和 34 年に花を見る山「花見山公園」として一般開放し、現在に至っている。
- ※なお、阿部家の管理する花見山公園では、ボランティアの募集や寄付金をお願いなどを一切おこなっていないそうです。

Web サイトから



アレっ、バックが開かない・・・



花見山公園の散策へ・・・

駐車場の一角で「花見山公園」を背景に集合写真を撮り、伊勢次郎氏、一郎氏、一夫氏と代々続く阿部家個人所有の公園を散策した。



逆光ですが 花見山公園を背景にパチリっ・・・

福島に桃源郷あり!?!

花見山公園は、日本を代表する写真家の故秋山庄太郎氏が「福島に桃源郷あり」と毎年訪れていた場所だそうです。園内の歩行ルートは約 4.5km あり、所要時間は約 1 時間 15 分かかるといいます。

農家でなければできないと始めた花の山が、現在では福島県内 2 位の花見スポットになっている。先代からの労苦が花咲かせ実を結んでるようだ。



菜の花畑でも 集合写真だべえ



阿部家が拓いた



公園を訪れた美女と



後をついてきた野獣にも



昌子ガイドが好きな「花桃」や



満開のチューリップが歓迎する!!



花見山公園の花は 今咲き誇る

アサヒビール園

食べ放題!!飲み放題の60分!!

花見山公園を11時45分に出発したバスは、東北道に入り本宮ICへ。本宮ICからは5分後の12時45分「アサヒビール園」に到着した。

本宮のアサヒビール工場は、大瓶の年間製造本数は6億本で国内最大の規模だそうだ。



ビール園は 国道4号沿いあった



連日、団体さんが名を連ねるとか・・・



飲み物は? シムウ、まずは生ビールで・・・



手際よく生ビールが並ぶ・・・



溢れる程に 肉を載せて焼くと・・・



四方から箸が伸びてくる・・・



満足度は「小原庄助さん」級だズ・・・



オレふた皿目、 オレは5杯目・・・



私は2杯にしておきました・・・



呑み疲れ？食べ疲れ？かな？？



ようやくほろ酔い気分かナァ・・・

えェ、斉藤サン、乗ってない!!

たらふく食べて、呑んで、写真係りの筆者は外に出て写真を撮っていた。出発予定は14時30分なので、10分前になったのでバスに戻ろうとしたら、あのバスが動き出していて国道4号に出ようとした。まさしく14時20分!!。なのに・・・

バスの中では、「斉藤サン乗っていないぞォ」と一騒動起きていたそうでありんす。



満腹気分でビール園をあとにする・・・



えッ、斉藤サン 乗ってないの??



写真、撮ってだったんだア・・・

三春ダム資料館

ビール園でたらふく食べて、呑んだ後はダムの見学に連れて行くという。何とも勇気ある企画である。

当初は「大滝根ダム」??

何が観光の目玉なのか解らないままに三春ダムに15時00分に到着する。案の定、三春ダムと簡素な資料館がポツンとあるだけみたい。国土交通省の直轄ダムで、当初計画ではダムの名称は河川の名前と同じ「大滝根ダム」であったが、周辺住民の要望にあわせて、町名と同じ「三春ダム」となったという。また、近くに「三春滝桜」があることから「さくら湖」と呼ばれているそうである。

20分の滞在で「三春滝桜」へ・・・

そんなことでトイレ休憩も含めて20分の滞在で次の訪問地である「三春滝桜」に向かった。

所在地：福島県田村郡三春町大字西方
河川：阿武隈川水系大滝根川

三春ダム諸元

ダム型式	重力式コンクリートダム
堤高	65.0 m
堤頂長	174 m
堤体積	195,000 m ³
流域面積	226.0 km ²
湛水面積	290 ha
総貯水容量	4,280,000 m ³
利用目的	洪水調節・不特定利水・ かんがい・上水道・ 工業用水・発電
事業主体	国土交通省東北地方整備局
電気事業者	(国土交通省)
発電所名 (認可出力)	(ダム管理用発電所)
施工業者	奥村組・大日本土木
着工年/竣工年	1972年/1998年
備考	水特法9条指定 水没総面積:300ha 水没戸数:118戸 水没農地面積:155ha



三春ダム管理所の隣が資料館



晶子ガイドの「おもてなし」??

パート1

今回の観光バスの旅は、トランスオーシャン株式会社の清水孝二運転士と滝本昌子ガイドに連れられての旅行となった。晶子ガイドは、まア、マイクを離すことなく「乗客」の私達にしゃべり続けているいろんな話題を提供してくれた。その甲斐甲斐しい「おもてなし」に接して、旅の期待と楽しみが増幅した事に感謝したい。その晶子ガイドの話題を改めてかみしめてみましょう。



大型観光バスの全長は何メートルある？

村山の道の駅を過ぎた頃に、いきなりクイズ。「大型観光バスの長さは何メートルあるか解りますか？」と訪ねてきた。自己紹介もそこそこのクイズに、しばしの沈黙の時間が流れた。

と、「13メートル!!」の声が上がった。晶子ガイドが「惜しい・・・」と唸る。答えは12メートルだという。ちなみに、マイクロバスは7メートルだと、そう決まっているそうだ。

そして、なぜそんなクイズを考えたかを話す。朝、大和工営の看板を見て、どんな仕事をしている会社かを観察した結果だという。

今日は小原庄助さんになって下さい・・・

山形道の山形蔵王 IC を過ぎた頃にいわく。

今日は福島の超有名人「小原庄助さん」になって下さい。とアドバイス。そして

♪♪ 小原庄助さん、なんで身上つぶした ♪♪
朝寝、朝酒、朝湯が大好きでえ ♪♪
そおれで、身上つぶした ♪♪
あアア、もっともだア、もっともだア ♪♪
と自ら諷んじてみせた。

朝酒が飲める。これは大変楽しいことです。今日と明日(車の運転しない人)は大いに小原庄助さんになって下さい。と念を押してくれる。

日本三大桜って、知ってます？

「三春滝桜」へ向かう車中で知りました。
三春滝桜：福島県三春町。樹齢1000余年。
山高神代桜：山梨県北杜市。樹齢2000余年。
根尾谷淡墨桜：岐阜県本巣市。樹齢1500余年。

福島の方は今日明日は晴れますヨ

出発時は雨、3411mの笹谷トンネルを越えた古関 SA でのトイレ休憩の時も強い風に小雨が混じる天候。晶子ガイドはしきりに天候の事を気に掛けてくれていた。

そして福島県に入った国見 SA では次第に青空が広がって来ていた。予定通り?の天候回復に自分の事のように喜んでくれていた。

福島に春を告げる「雪うさぎ」・・・

福島飯坂 IC が近づいて来た頃、昌子ガイドが興奮した声で「皆さア～ん、吾妻小富士の種まきうさぎ(正しくは雪うさぎ?)がみえますヨオ」を騒いだ。身を乗り出してその方向を探してみたものの、その時はどこがうさぎの形なのか解らなかった。

大型観光バスの駐車料金のこと・・・

花見山公園の大型観光バスの駐車料金は1万円。高いか安いかわかりません。ちなみに大曲花火の時の観光バス駐車料金は2万円だという。

ソメイヨシノとエドヒガンザクラの違い？

花見山公園からバスが動き出したころの話題。桜の木(幹)の様子が横縞はソメイヨシノで、縦縞はエドヒガンザクラ系ですヨ。ソメイヨシノはある程度の成木になると枯れてしまうが、エドヒガンザクラ系は寿命が長く、樹齢が1000年、2000年と云った古木も多くある。という。

三春滝桜

滝桜プロフィール

- 所在地…福島県田村郡三春町大字滝字桜久保地内
- 種類…エドヒガン系のペニシダレザクラ
- 大きさ…高さ13.5m、幹回り8.1m、根回り11.3m
枝張り 東へ11.0m、西へ14.0m
南へ14.5m、北へ5.5m
- 樹齢…1,000年以上と推定されています。
- 見頃…4月中旬から下旬
開花日…平成26年4月11日 平成25年4月7日
平成24年4月23日 平成23年4月13日
- 特徴…小さな紅色の花を無数に咲かせ、まさに滝が
流れ落ちるかのようにみえます。

午後3時30分。次の訪問地の「三春滝桜」に到着した。見学時間は1時間程ある。しかも、幸運なことに満開の滝桜との面会となる。

「プロフィール」にもあるように桜の見頃はその年によってばらつきがあり、「運」がないととても満開の桜には出会えないらしい。

たまたま創立50周年記念の旅行で、初めて見る「滝桜」が、たまたま満開だったんです。人生「運」に勝るものはありませんねエ（笑）



滝桜への案内板



満開の滝桜（中央）が見られました



案内板に誘われて・・・



多くの人々がやってくる・・・



滝桜、見事に咲きました・・・



満開の滝桜に会えて、ラッキー!!



ワタシ、写真係なんでエ!?



ワタシ、カメラマン??・・・



オレども、撮ってエ・・・



三春滝桜、お見事でした!!

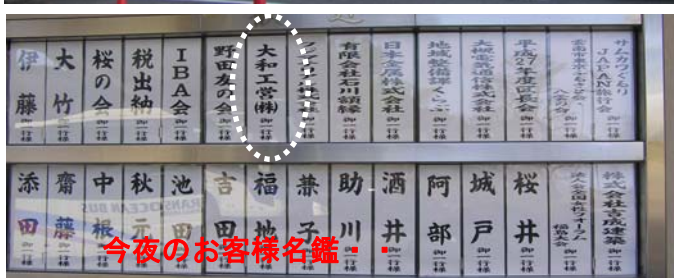
母畑温泉「八幡屋」

今宵の宿に、無事に到着・・・

午後4時35分「三春滝桜」を出発し、今宵の宿泊地の母畑温泉に向かう。旅の宿「八幡屋」には5時40分に無事に到着した。



福島・母畑温泉「八幡屋」



晶子ガイドの「パート2」 「おもてなし」??

入浴の方法?? を伝授

母畑温泉が近づく頃、温泉の入り方についてのアドバイスあり。皆さん、温泉には絶対3回入って下さい。

- 1回目は、体の疲れをとるために、宴会の前に入して下さい。
- 2回目は、酔いの程度にもよるが、寝る前に入る。これは心の癒やしのために入ります。
- 3回目は、小原庄助さんと同じく「朝風呂」です。これは何かと言うと温泉の成分を体に取り入れるためです。3回入れば効果が現れるといわれています。せっかくの温泉成分をシャワーで流さず、タオルで体を拭く程度にすると良い。

温泉のマークはたらいに湯気が3本あるのもこれらに由来しているとも言われています。じゃあ、何回入ってもいいか? というそうではありません。「湯あたり」ということもありますから。

また、これから行く宿泊先の「八幡屋」の接客サービスは、旅行業界の中でも「ピカイチ」との評価があるので注目を。とアドバイス。その「八幡屋」さんには、社長の方針でこの4月には20名の新入社員を採用し、「また来て泊まりたい」と思わせる旅の宿を目指しているとの昌子ガイドからの解説があった。



100 余年の老舗旅館なのに・・・

館内に入ると建物中央が吹き抜けでその中央に赤い絨毯の洋舞台が設けられている。100余年の歴史ある老舗（しにせ）旅館なのに斬新さがある。指定の部屋に案内され、程なくして仲居さんをご挨拶にきてお茶を入れてくれた。

「挨拶」も「お茶」も「最近の宿」では経験がなかったので「ビックリポン」でした。



珍しげに、洋舞台をながめて・・・



「ろうか」はゆっくり進み・・・



部屋に案内された・・・

大宴会の始まりは7時から・・・

「大宴会」は午後6時50分集合で7時に乾杯との幹事からの指示なので、昌子ガイドのアドバイスに従い、1回目の入浴に向かうことにした。

7時には「コンパニオン」3名が来ることになっているらしく、6時50分に開宴された。まさに「7時に乾杯」の宴である。お待ちかねの方もいたらしい「コンパニオン」のお姉さんが入室し福島の夜は盛り上がっていくのだったが・・・



宴会は社長のあいさつでスタート!!



須藤部長の乾杯でグィッ、と飲みほす!!



記念旅行の大宴会の、始まりは静かだった・・・



「八幡屋」のおもてなしの心・・・

朝風呂を浴び食堂に向かった。食事はバイキングで係りの方から「まずお席を決めて下さい」と言われ赤い鳥居の山が見える席に陣取った。

旅館を去る時、玄関で見送った仲居さん達が、全力でバスを追い越して走り出した。そして敷地の端まで走って来ていつまでも手を振って見送っていたのには、感動的で「ウルッ、」ときた。



母畑温泉～大内宿

大内宿まで福島県浜通りから会津に入る訳で、約2時間ほどバスに揺られて行くことになる。途中、観光スポットもないらしい。乗客を退屈にさせてはならじと昌子ガイドの話術が本領を発揮することになる。

昌子ガイドの「おもてなし」??

パート3

カマキリとカメムシ

お客さんから教わったことで、カマキリの卵が高いところにあつたら大雪になり、低い所に産んであつたら雪が少ない。んだってエ。

山の名前の教え方??

こういうところを走ると、お客さんから、「ガイドさん、あの山の名前、なんて言うんだア」なんて聞かれることもあるそうだ。

そんな時、前のほうだったら「前山でございます。」後ろだったら「うしろ山でございます。」左だったら「ひだり山でございます。」右の方だったら「みぎ山でございます。」なんて言ったりするべしたア。ほしたらお客さん、本気して、「ほオ、んだがした!!」なんていうんだもんだから、こっちがビックリするべしたア。

年金を貰っていないバスガイド??

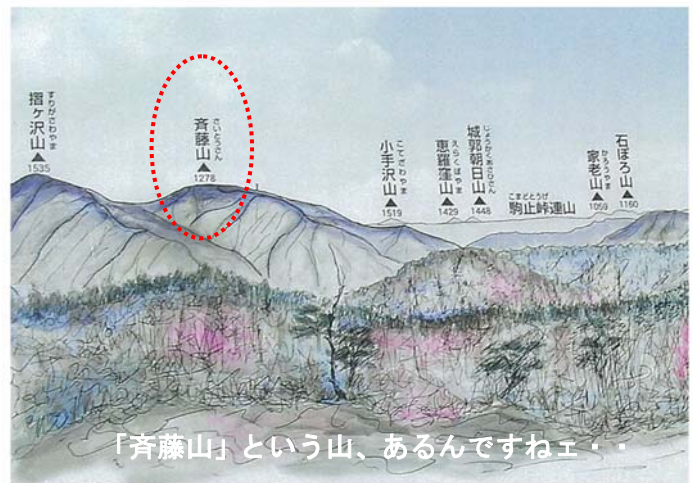
こういう(ガイド)職業は仕事でいろんな所をみられておいしいものも食べられる。その上、お金までもらえるんだから天職ともいえるが、若いガイドを育てるのは「会社」としても大変な経費がかかる。老人クラブの旅行なんか、「年金をもらっているバスガイド」が再登板している例なんか、ザラなんです。こないだある老人クラブの旅行のガイドで乗車したら、「あ、年金の貰っていないガイドさんだア」って、大変喜ばれたんですヨ。

郡界のトンネルの名前??

浜通りと会津の郡界のトンネルの名前は「甲子」とかいて「かし」と詠みます。甲子トンネルの全長は4360mとなっています。

道の駅「しもごう」で休憩・・

そんな感じで1時間経過したところに道の駅がありトイレ休憩となった。栃木との県境の那須連山の残雪がまばゆく輝く。「なんでこんな所に道の駅を造ったんだろう?」との疑問が湧いてくる。道の駅には周辺の山々の案内板があり、「斉藤山」と山があるのには感動した。(後で調べたら二等三角点の山でした。)



大内宿

道の駅「しもごう」から30分して、日光街道と呼ばれている国道121号に入り北上し、大内宿には10時20分に到着した。



大内宿全景

江戸時代の宿場のままの たたずまい・・・

大内宿を守る住民憲章

1. 目的

大内宿は会津西街道の宿場として栄えた所である。また、農業や林業も兼ね心静かな祖先が生活してきた所である。この大内宿を保存することになるまで十余年の年月がかかったことは我々の責任であり、祖先に対する不幸であった。今後我々は、保存優先の原則を貫き、宿場保存と村の発展のため力を合わせ、富の配分を公正にしなければならない。

2. 保存優先の原則

保存をすべてに優先させるために、大内宿と旧街道沿いの観光資源（建物・屋敷・農耕地・山林等）について、「売らない」「貸さない」「壊さない」の三原則を貫く。

3. 大内宿から展望できる周辺と旧街道沿いを区域とする。

4. 外部資本から大内宿を守る。

- (1) 大内宿と旧街道沿いは、地域住民の大切な財産である。
- (2) 外部資本が入れば文化財の観光利用による収益の大半が還元されることなく、外部へ流出してしまう。

5. 自らの生活を守るために

大内宿の保存を決定するまでには、十余年の歳月を必要とした。この経緯を忘れることなく保存を継続するために、次に掲げる事項に該当する場合は、保存会に申し出なければならない。

- (1) 所有者を変更する場合。
- (2) 所有者が氏名・名称または住所を変更しようとするとき。
- (3) 指定物件に滅失、老損等があった場合。
- (4) 土地の所在、地番、地目または地積に異動を生ずるとき。
- (5) 現状変更または保存に影響を及ぼす行為をしようとするとき。
- (6) 復元しようとするとき。

富の配分を公正に・・・

6. 風致を保全するために
 - (1) 宿場内と旧街道沿いの景観をそこなうような行為をしてはならない。
 - (2) 広告・看板並びに一般ポスター・政治活動ポスター（選挙運動期間中を除く）等は、掲示してはならない。
7. 環境整備をするために
 - (1) 宿場内の静寂を保つため物売り、宣伝、車両等による騒音を発してはならない。
 - (2) 民宿、土産品店等は、午後9時までに閉店する。
 - (3) 衛生思想の宣揚を図るため、宿場内と沿道の清掃並びに関係機関による食品衛生指導などを定期的実施する。
8. 防火体制を確立するため
 - (1) 各家庭で使用する石油、ガス類は必要最小限度に留めること。
 - (2) 危険物取扱店は、法による安全性と防火措置を完全に履行すること。
 - (3) 歩行中の喫煙はつつしむこと。
9. 防犯体制を確立するために
 - (1) 民宿においては、法による所定の宿帳を備え付け、正確に記載させること。
 - (2) 盗難、サギ等の犯罪に対しては、あらかじめ自主的にその方法を講じておくこと。
 - (3) 不測の事故が予測され、または発生したときは、速やかに警察当局に連絡し、その措置に協力すること。
10. 交通安全を図るために
 - (1) 宿場内における路上駐車を禁止する
 - (2) 風致保存と事故防止のために車両は、車庫へ格納すること。
 - (3) 宿場内における車両の速度は、20km以下とする。
11. 町・県・国に対して
自然環境、風致保全並びに災害防止のため必要な措置を要請する。

10 余年の話し合いで決めたという「村の掟」

大内宿の散策・・・



むらの入口に代々続く屋号が表示・・・



まずは 一服すんべ・・・



江戸のむらに タイムスリップ・・・



手入れが行き届いた茅葺き屋根



花粉症??、かな??・・・



大勢の人に混じり、進んで行くと・・・



村の「おきて」に従い・・・



茅葺きの屋根修理の人達が・・・



だいふ歩いてきたヨ・・・



更に奥に進むと・・・



絶景ポイントがあり・・・



記念写真の人になる・・・



大内宿の茶屋で一服だァ・・・



体はちいさいが、
ウワ、でっかいせんべえ・・・



軒先に「マメコバチ」の巣がある・・・



振り返ると「大内宿」デシタ・・・

鶴ヶ城

大内宿で1時間程散策した後、会津若松へ向かう。晶子ガイドが桜散っていないだろうか？と心配してくれた。12時10分鶴ヶ城に到着。

まずはメシだべえ・・・

鶴ヶ城会館前で少し待って食堂に入り、昼食となった。心配してくれた桜は、「運」がいいことに満開といった感じ。



やんべえ、腹へったス・・・



食事の準備は整っていて・・・



こんなメニューを・・・



楽しく、たいらげました・・・

鶴ヶ城の城内へ・・・

鶴ヶ城会館の出口？で昌子ガイドと待ち合わせて城内へ向かう。満開の桜の下では花見の団体さんもいた。

鶴ヶ城には7つの見どころがあるそうで、それは①鯨（しゃちほこ）、②鉄砲狭間、③赤瓦、④廊下橋、⑤椿坂、⑥武者走り、⑦荒城の月・歌碑、といった7つだそうだ。

天守閣をバックに集合写真を撮り、天守閣に登った後、城内を見物した。



満開の桜の下を進むと・・・



前方に天守閣が見えてきた・・・

鶴ヶ城天守閣



創立 50 周年大和工営株式会社御一行様



受付をして天守閣に上ると・・・



歌で名高い会津磐梯山や・・・



白く輝く飯豊連峰の山々が・・・



下を見おろすと団体客が宴会中・・・



ハイッ、ポーズ!! (腰の低い人達??)



天守閣には松が似合いますねえ...



会津若松市のPRキャラクターです...



満開のさくらで...



良かったですねえ

喜多方ラーメン工場

係員の案内で工場見学・・・

鶴ヶ城を午後2時に出発し、最後の訪問地喜多方ラーメン工場に向かい、予定通り2時30分着。係員からの挨拶で、遠くの飯豊山を指さし「あの飯豊山までは30kmあるが、その山を水源とした水を使用している」と云う。どでかいタンクに満タンした原料は、1週間でなくなるそうで、すべて受注生産らしい。帰りには、大きな煎餅を1枚ずつ差入れをして戴いた。



全自動で人間は補助作業をするだけ・・・



窓越しに、その作業を見学する・・・

喜多方～新庄へ

全日程を終えてバスは帰途の道を走り出した。昌子ガイドは、喜多方はラーメンの街とのイメージが強いが、実は「蔵の街」なんだそうだ。喜多方は「蔵」が多く、40歳までに「蔵」を立てられない男は「一丁前ない!!」と云われるんだそうだ。昌子ガイドの発案で、今からDVDをかけま〜す。車内は急に静かになった。



Pm5:25 道の駅村山で工藤さん下車・・・



Pm5:49 尾花沢で3名下車・・・



Pm6:20 会社着

全員無事に、ただいま帰りましたァ〜



写真係は、私達が担当しました。

若者からの記念旅行の感想文です

私が大和工営(株)に入社して初めての研修旅行が創立 50 周年の社員旅行ということもあり、とても思い出に残る 2 日間になりました。旅行で行ったどの場所も楽しかったですが、特に三春の滝桜は満開の時期に行くことができ、樹齢 1000 年以上というだけあって迫力を感じました。車内でもバスガイドさんからの面白い話だったり興味深い話をしてくれて、移動時間も楽しかったです。少しハプニングもありましたが(^^) 今回の旅行に参加できてとても良かったです。



大内宿
奥山里美さん(平成 26 年入社)



花見山公園
長澤寿貴斗くん(平成 27 年入社)

大和工営に入社して二年目に初めての社員旅行に行くことができました。皆さんで一日中酒を飲んだり、食べたりする機会なんてめったにないので凄く楽しかったです。特に、福島の上三春ダムや滝桜などが一番思い出に残っています。アサヒビール園での BBQ も吐きそうになるくらいまでジンギスカンを食べました。ジンギスカンが原因で宴会では何も食べられなかったことも一つの思い出です。大和工営に入社したことで様々な経験をさせていただきました。これからの社員旅行も楽しみに日々の仕事に励んでいきたいと思っています。

写真集について

創立 50 周年記念の社員旅行にあたり、3 名で写真係を担当しました。撮影枚数は 753 枚になりました。すべては掲載出来ませんが、今回の旅行を思い出すキッカケになれば嬉しく思います。(写真と文責：齋藤)



大内宿
佐藤雅彦くん(平成 28 年入社)

創立 50 周年という節目の年に入社し、その記念の社員旅行に参加できたのはとても有意義で、多少でも馴染めたと思うので、とても素晴らしい体験になりました。久しぶりの社員旅行ということでしたが、今後こういう機会があるように頑張りたいと思います。

大和工営株式会社創立 50 周年記念 社員旅行写真集

(非売品)

2016 年(平成 28 年)5 月 30 日発行
大和工営株式会社創立 50 周年記念
社員旅行・写真班(奥山、阿部、齋藤)
山形県新庄市大字福田字福田山 711-43

TEL 0233-22-2422